

【人間発達文化学類のアドミッション・ポリシー】

1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間および文化に対し、それらの仕組みや相互関係について「理解し探究する力」
- ・主体的に現実にふれ、働きかける「人や文化と関わる力」
- ・課題を発見し知識や技術を通して「解決し創造する力」
- ・上記3つを基礎として、全体として人間の発達を支援し文化を育んでいく「教え育む力」

人間発達文化学類には、人間発達専攻、文化探究専攻、スポーツ・芸術創造専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は次の通りです。

- ・人間発達専攻では、教育の現実や歴史に対する知見や、確かな心理学的知見、乳幼児期から生涯にわたる人間の発達、特別な教育的ニーズ等に強い関心があり、将来、関連分野で子どもたちを支援する職業等につきたいと考えている学生を求めます。
- ・文化探究専攻では、人間の発達にかかわる言語文化、地域文化、生活科学、数理科学について、それぞれの学問内容を深めるとともに、領域相互の関連性や応用性を追求し、その成果を教育現場や社会の中で生かしていこうとする学生を求めます。
- ・スポーツ・芸術創造専攻では、スポーツ・芸術分野や教育現場において広く活躍する専門家を育成することをめざして、これらの分野に強い関心を持ち、高い技能と深い探求心をもつ学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

人間発達支援者には、人間に対する理解だけでなく、高校で学ぶ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの広い知識が必要です。大学において新たな知識や技術を身につけるために、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力・実技能力

(2)得意分野に関する優れた理解・技能（以下のうち1つ以上）

- ・得意な教科や領域の意味内容をよく理解している。
- ・スポーツにおける優れた実績を有している。
- ・音楽や美術において優れた技量を有している。

(3)教育・人間・文化・社会への問題意識、及び人間発達支援に対する強い意志

【行政政策学類のアドミッション・ポリシー】

1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類では、2年生の前期（第3セメスター）から、法学専攻、地域と行政専攻、社会と文化専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識及び能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・法学専攻：リーガルマインド（「法的な思考」）を身につけた上で、市民としての政治参加、裁判員制度、企業法務、公務員としての法的実践などに適応し、国および地域の法的問題を自ら発見・解決することができる。
- ・地域と行政専攻：政治・行政・社会にかかわる研究分野の基礎的知識と、地域の固有性と多様性に対する調査能力・思考力を身につけたうえで、地域社会の諸問題の解決に向けて積極的に貢献することができる。
- ・社会と文化専攻：社会学、歴史学、教育学、文化研究等についての専門的知識と学際的知識、及び調査・情報解読能力を身につけた上で、現代社会、地域社会、歴史理解、異文化理解、国際交流等にかかわる問題をみずから発見・考察し、その解明・解決の方向性を見出すことができる。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力（以下のうち1つ以上）

- ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。
- ・上記科目のうち、いずれか3科目について、優れた知識を有している。

(2)現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力（以下のうち1つ以上）

- ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力・要約力
- ・政治・経済、社会的な問題などに関心を持ち、深く考察する態度
- ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力或いは論点整理力

推薦入試では、上記の(1)・(2)に加え、以下の点を評価します。

- ・新しい地域社会づくりに関心を持ち、地域社会の発展に貢献しようとする意欲、及び流動的な社会の変化に対応し、過去に例のない課題に対して果敢に挑む意欲

【経済経営学類のアドミッション・ポリシー】

1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことによって、社会での実践力を発揮するために、卒業までに次の3つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・職業人、生活者として自立し、社会的、倫理的な観点から自らを律することができる。
- ・幅広い教養と経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識に基づいて、現実を分析し、論理的に思考することができる。
- ・経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識を適切に応用することができ、経済学士としての実践力と問題解決能力を身につけている。

経済経営学類では、2年生の後期（第4セメスター）から、経済分析専攻、国際地域経済専攻、企業経営専攻の3つの専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識及び能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・経済分析専攻：ミクロ・マクロ経済学での諸議論を通して経済のしくみを体系的に理解し、得られた知識を金融・公共経済をはじめとした経済システムの分析とそのあり方に関する実践的な考察に応用することができる。
- ・国際地域経済専攻：経済学的素養に基づく理論的、歴史的、政策的見地に加えてグローバルな知識を身に付けて今日の経済社会を理解し、国際社会と地域社会の課題に理論的実践的に取り組むことができる。
- ・企業経営専攻：企業活動に対し、外部環境を踏まえて定量的・定性的に分析するための専門的知識を有し、それを応用して企業およびその他組織における適切な意思決定ができる基礎的力量を身につけている。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる能力と、社会での実践力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力

- ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。

(2)読解力・思考力・知識活用力・表現力

(3)現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲

(4)得意分野に関する優れた学力・実績（推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試に該当）

推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試では、上記の(1)、(2)、(3)に加え、以下の点を評価します。

・推薦入試（以下のうち1つ以上）

行動力や創造力に基づいた、特記すべき活動歴を有している。

簿記・情報関連に対する優れた知識、ないし関連資格を有している。

英語等の外国語に関する優れた知識、ないし関連資格を有している。

・専門学科・総合学科卒業生入試

簿記、情報等の実践的科目に対する優れた知識を有している。

【共生システム理工学類のアドミッション・ポリシー】

1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

共生システム理工学類では、学生が卒業までに、人－産業－環境が共生するためのシステム科学を学び、個性に応じた実践的研究の体験を積むことで、以下の3つの力を身に付けることを教育目標としています。

- ・人－産業－環境のシステム科学に関する幅広い専門知識
- ・広い視点から課題を発見できる文理融合型の思考力
- ・21世紀の諸問題に挑戦し問題解決するための実践力

共生システム理工学類には、人間支援システム専攻、産業システム工学専攻、環境システムマネジメント専攻の3つの専攻があり、それぞれ以下のような特徴をもつ研究・教育を行っています。そのいずれかに興味があり、自分に適合していると考えた学生を求めます。

- ・人間支援システム専攻では、心理学・生理学・生体工学などのヒト理解に関わる生体システム科学や、情報・機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術開発についての研究などを通じた教育、およびそれらに必要な基礎教育を行っています。これにより、卒業後、人間支援技術分野で活躍できる人を育てています。
- ・産業システム工学専攻では、化学工学・材料工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術、情報工学、経営工学、さらにそれらを基礎とする省資源・循環型社会システムの構築についての研究などを通じた教育、およびそれらに必要な基礎教育を行っています。これにより、ものづくりが好きで企業経営にも強い関心があり、卒業後、エンジニア・弁理士など産業支援の様々な分野で活躍できる人を育てています。
- ・環境システムマネジメント専攻では、環境分析化学、浄化工学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムに関する研究などを通じた教育、およびそれらに必要な基礎教育を行っています。これにより、水を中心とした環境理解と自然資源の確保・保全に強い関心があり、卒業後、環境管理者、環境計量士、公害防止者として活躍できる人を育てています。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

本学類は、人間について知りたい、ものづくりや経営に興味がある、自然や環境を調べたい、の少なくともどれか1つに当てはまり、人間社会が抱える問題にも関心がある皆さんの入学を歓迎します。本学類での学習は、高校までの数学・理科を基礎に発展させますが、変化を続ける人間社会とその課題を理解する力も必要です。そのため以下に挙げる基礎的な知識・能力・意欲を有している学生を求めます。

(1)高校時代までに学ぶ基礎的な知識

(国語、地歴公民、理科、数学、外国語についての、修学に必要な知識)

(2)理系科目に対する柔軟な思考力、理解力、応用力、および表現力

(3)人－産業－環境の共生システムの理解・開発・管理等に継続的に取り組む意欲

【現代教養コースのアドミッション・ポリシー】

1. 現代教養コースの教育目標と求める学生像

現代教養コースでは、現代社会が直面する問題を解決するための“新しい教養”を身につける意欲をもち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える社会人を学生として受け入れます。

- ・ 職業に関わる専門的知識・技能の修得を望む学生
- ・ 現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する 社会人としての教養を求める学生
- ・ 人間性を探求する 生きがいとしての教養を求める学生
- ・ 働きながら、生活や職業という実体験をもとにして、主体的に学習を深めることを望む学生

現代教養コースには、文化教養モデル、コミュニティ共生モデル、法政策モデル、ビジネス探究モデルの4つのモデルがあります。各モデルが求める学生像は次の通りです。

- ・ 文化教養モデルでは、教養を広げ、文化を体系的、探究的に学びたい学生を求めます。たとえば「子育てや家庭教育、家族の問題についてきちんと考えてみたい人」「地域や文化、ことば、国際理解、数理科学などの問題に関心のある人」「健康やスポーツに関心がある人」「芸術的教養を高めてみたいと考えている人」です。
- ・ コミュニティ共生モデルでは、地域コミュニティの抱える問題に対し、その解決に貢献するための学問的基礎知識を身につけたい学生を求めます。たとえば「まちづくりや福祉活動などに携わっている人、関心のある人」「将来、地域社会でボランティアやNPO活動などへの参加を考えている人」「地域社会のリーダーを目指している人」です。
- ・ 法政策モデルでは、複雑で多様な地域社会の現象に的確に対処できる、法的な思考・解決能力の修得を望む学生を求めます。たとえば「公務員をはじめとした公共部門の仕事に就いている方で法律知識を身につけたい人」「裁判員制度や司法改革により法律が身近なものとなる中で、市民としての幅広い教養的法学を学びたいと考えている人」「将来、法律の専門職、資格取得を意識し、その基礎的法律知識を身につけたい人」です。
- ・ ビジネス探究モデルでは、現代社会で起こっている様々な問題に関心をもち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことで、社会での実践力を養いたいと考える学生を求めます。たとえば「企業や役所等に勤める方で、業務のうえで経済・経営について学びたいと考えている人」「高校卒業後、働きながら経済・経営について学びたいと考えている人」「地域の問題に関心をもち、これを経済・経営の視点で捉えたいと考えている人」です。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

職業に関わる専門的知識・技能、および、現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養や、人間性を探求する生きがいとしての教養を、働きながら身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 大学での学びの基盤となる基礎的な学力
- (2) 夜間主コースにて何を学ぶのかに関する鮮明な目標と課題意識
- (3) 自己の目標に向かって努力する姿勢
- (4) 働きながら修学を続けることに対する強い意志